



2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月13日

上場会社名 ナイル株式会社 上場取引所 東
コード番号 5618 URL <https://nyle.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）高橋 飛翔
問合せ先責任者 （役職名）取締役 コーポレート本部本部長 （氏名）長澤 斉 TEL 03（6682）9692
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第3四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年12月期第3四半期	4,899	24.8	△165	—	△191	—	△192	—
2024年12月期第3四半期	3,924	—	△591	—	△603	—	△606	—

（注）包括利益 2025年12月期第3四半期 △192百万円（－％） 2024年12月期第3四半期 △606百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	△22.56	—
2024年12月期第3四半期	△71.03	—

（注）2024年12月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年12月期第3四半期	3,217	402	12.0
2024年12月期	2,912	591	19.9

（参考）自己資本 2025年12月期第3四半期 385百万円 2024年12月期 578百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—		
2025年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	6,450	18.0	△180	—	△210	—	△225	—	△26.35
	～6,950	～27.1	～80	—	～55	—	～40	—	～4.68

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2025年12月期の連結業績予想については、レンジ形式により開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 3 Q	8, 536, 800株	2024年12月期	8, 536, 800株
② 期末自己株式数	2025年12月期 3 Q	ー株	2024年12月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期 3 Q	8, 536, 800株	2024年12月期 3 Q	8, 536, 622株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計方針の変更に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）当四半期の経営成績の概況

当社グループは「幸せを、後世に。」のミッションの下、社会に根付く事業作りを通じ、時代を超えて人々の幸せに貢献します。また、豊かで幸せな未来を次の世代に紡いでいくため、ビジョンを「日本を変革する矢」とし、絶え間なき自己変革を繰り返しながら、日本を良くするための事業に挑戦し、日本のDX課題を解決する「産業DXカンパニー」として、各種事業を展開しております。

創業以来、当社グループはDX及びマーケティングを中心にインターネットを活用した各種技術・ノウハウを蓄積し、その強みを活用して、「ホリゾンタルDX事業」及び「自動車産業DX事業」を運営しております。今後も様々な領域で画期的な事業を創出し、デジタルマーケティングの知見を駆使した事業づくりを通じて、社会をより良く変えていくべく取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加などを背景に、緩やかな回復が継続しております。一方で物価上昇の長期化や、金利動向、米国の通商政策などによる影響について、引き続き注視する必要があります。

このような環境のなか、自動車産業DX事業が高成長を維持し、ホリゾンタルDX事業が安定した黒字を継続したことにより、赤字幅は大幅に縮小いたしました。戦略的投資の成果も顕在化し、全体として黒字化に向けて着実に進捗しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,899,275千円（前年同期比24.8%増）、営業損失は165,693千円（前年同期は営業損失591,402千円）、経常損失は191,162千円（前年同期は経常損失603,484千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は192,602千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失606,348千円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①ホリゾンタルDX事業

ホリゾンタルDX事業は、創業以来培ってきたDXやデジタルマーケティングに関する技術・ノウハウを強みにし、顧客企業に対するコンサルティングサービスを主軸にしつつ、生成AIによる業務自動化支援、メディア開発・運営及びデジタル広告に関するソリューション提供を通じた事業支援を行っているDX&マーケティング事業と、情報メディア「アプリブ」やデジタル広告ソリューション「NYLE TRIDE」の提供を中心としたメディア&ソリューション事業から構成されています。

当第3四半期連結累計期間においては、安定的な収益基盤を維持し、引き続き全社の収益改善に貢献いたしました。効率的な運営体制のもと、黒字事業として堅調に推移しております。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は1,638,614千円（前年同期比8.5%減）、セグメント利益は336,070千円（前年同期比1.7%減）となりました。

②自動車産業DX事業

自動車産業DX事業は、当社が有するDX・マーケティングの知見を活かし、車を「持つ・守る・手放す」までのカーライフ全体を一気通貫で支えるブランド「カルモくん」を運営しています。「カーリースカルモくん」は、店舗を持たず全ての手続きをオンラインで完結できるスキームを構築し、個人向けに新車・中古車のカーリースを提供しています。マイカーを月額1万円台から持てる日本最安値水準の価格設計に加え、1年～11年の柔軟な契約期間、さらには車検・税金・メンテナンス費・自動車保険・故障保証など、ライフスタイルに応じた付帯サービスも定額で選択可能とすることで、LTV（顧客生涯価値）の最大化を実現しています。

ビジネスモデルとしては、初年度に広告宣伝費を投入して新規顧客を獲得し、契約時に初期紹介手数料によるスポット収益を計上。その後は契約期間中の月額課金により安定収益を得つつ、契約満了後の車両再リースや買い替えにより追加収益を得る、3層構造の収益モデルになります。このモデルにより、広告投資の即時回収と、中長期的な月額収益の積み上げを両立しています。

また、当事業は長期契約を前提としたサービス設計と非常に低い解約率により、契約残高が着実に積み上がっており、将来にわたる収益の見通し精度が高い安定的なビジネスモデルとなっています。これにより、継続的な収益成長が期待できる基盤が構築されています。

当第3四半期連結累計期間においては、2024年8月に子会社化した株式会社パティオによる売上増加効果及び商品構成の拡充を背景に、大幅な増収を実現いたしました。月額収益の積み上げも順調に進み、赤字幅は大きく縮小するなど、セグメント黒字化に向けて着実に進展しております。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は3,260,660千円（前年同期比52.8%増）、セグメント損失は248,028千円（前年同期はセグメント損失649,007千円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,672,031千円となり、前連結会計年度末に比べ331,449千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が93,220千円増加、売掛金及び契約資産が123,902千円増加、商品が128,473千円増加したことによるものであります。固定資産は545,036千円となり、前連結会計年度末に比べ27,016千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が4,106千円増加、無形固定資産が4,604千円減少、投資その他の資産が26,518千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,217,068千円となり、前連結会計年度末に比べ304,432千円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,587,218千円となり、前連結会計年度末に比べ354,356千円増加いたしました。これは主に買掛金が7,771千円増加、短期借入金が99,950千円増加、1年内返済予定の長期借入金が151,627千円増加したことによるものであります。固定負債は1,227,033千円となり、前連結会計年度末に比べ138,280千円増加いたしました。これは主に長期借入金が137,278千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,814,252千円となり、前連結会計年度末に比べ492,636千円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は402,815千円となり、前連結会計年度末に比べ188,203千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失を192,602千円計上したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期の通期の業績予想につきましては、2025年8月13日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,283,072	1,376,292
売掛金及び契約資産	382,541	506,444
商品	377,963	506,437
その他	306,229	294,350
貸倒引当金	△9,225	△11,492
流動資産合計	2,340,582	2,672,031
固定資産		
有形固定資産	114,989	119,095
無形固定資産		
のれん	38,458	34,076
その他	1,043	819
無形固定資産合計	39,501	34,896
投資その他の資産	417,561	391,043
固定資産合計	572,053	545,036
資産合計	2,912,635	3,217,068
負債の部		
流動負債		
買掛金	75,482	83,253
短期借入金	300,000	399,950
1年内返済予定の長期借入金	358,397	510,024
未払法人税等	2,337	5,712
賞与引当金	14,546	9,788
その他	482,099	578,489
流動負債合計	1,232,862	1,587,218
固定負債		
長期借入金	1,068,595	1,205,873
資産除去債務	8,168	8,169
その他	11,989	12,991
固定負債合計	1,088,752	1,227,033
負債合計	2,321,615	2,814,252
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	1,271,747	596,582
利益剰余金	△703,266	△220,704
株主資本合計	578,480	385,878
新株予約権	12,538	16,937
純資産合計	591,019	402,815
負債純資産合計	2,912,635	3,217,068

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年9月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年9月30日）
売上高	3,924,942	4,899,275
売上原価	2,317,680	3,136,528
売上総利益	1,607,262	1,762,746
販売費及び一般管理費	2,198,664	1,928,439
営業損失（△）	△591,402	△165,693
営業外収益		
受取利息	151	1,444
為替差益	657	—
その他	871	224
営業外収益合計	1,680	1,668
営業外費用		
支払利息	13,417	23,504
為替差損	—	473
支払手数料	—	3,000
その他	346	160
営業外費用合計	13,763	27,138
経常損失（△）	△603,484	△191,162
特別利益		
新株予約権戻入益	291	1,294
特別利益合計	291	1,294
税金等調整前四半期純損失（△）	△603,193	△189,868
法人税、住民税及び事業税	2,902	1,860
法人税等調整額	252	873
法人税等合計	3,155	2,733
四半期純損失（△）	△606,348	△192,602
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△606,348	△192,602

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年9月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年9月30日）
四半期純損失（△）	△606,348	△192,602
四半期包括利益	△606,348	△192,602
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△606,348	△192,602

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日）、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号2022年10月28日）及び、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日）を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間（自2024年1月1日 至2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	ホリゾンタル DX事業	自動車産業 DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,790,989	2,133,953	3,924,942	—	3,924,942
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,790,989	2,133,953	3,924,942	—	3,924,942
セグメント利益又は損失 (△)	342,035	△649,007	△306,972	△284,429	△591,402

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△284,429千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社パティオを子会社化したことに伴い、「自動車産業DX事業」においてのれんが発生しております。当該事象によるのれん増加額は、38,643千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2025年1月1日 至2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	ホリゾンタル DX事業	自動車産業 DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,638,614	3,260,660	4,899,275	—	4,899,275
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,638,614	3,260,660	4,899,275	—	4,899,275
セグメント利益又は損失 (△)	336,070	△248,028	88,041	△253,735	△165,693

- (注) 1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△253,735千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年1月1日 至2025年9月30日)
減価償却費	3,871千円	10,836千円
のれんの償却額	920	4,381